

授業要綱

32期生（令和8年度）

宇和島看護専門学校

1. 看護学教育の主要概念

本校では、看護の主要概念である人間、健康、環境、看護、および学習・教育を以下のように定義する。

<人間>

- ・人間は身体的・精神的・社会的に統合された存在である。
- ・人間は胎生期から老年期（死）までのいずれかの成長発達段階にある。
- ・人間は共通の基本的欲求をもち、それぞれ自己実現をめざしている。
- ・人間は常に環境（社会）とエネルギー（情報）交換をしている開放システムである。
- ・人間は環境との相互作用の中で生活し絶えず変化し適応をめざしている。
- ・人間は一人ひとり個性を持ち、独自の価値観を持つかけがえのない存在である。

<健康>

- ・健康とは身体的、精神的、社会的に調和のとれている状態であり、セルフケア能力を最大限に発揮できることである。
- ・健康は人々の基本的権利の一つであり保障されるものである。
- ・健康と不健康は連続しており、人々はその連続体のどこかに位置している。
- ・健康は人間が環境に適応している状態であり、常に流動的に変化している。
- ・健康は人生の目標を達成するために必要な資源である。
- ・健康の保持増進、回復、安らかな死に向けて保健・医療・福祉のサービスが必要である。
- ・健康は主観的あるいは客観的なものだけで決めることはできない。
- ・健康は一つの価値である。

<環境>

- ・環境は人間を取りまく全てである。
- ・環境には、外部環境、内部環境があり、人間の生活に影響する。
- ・外部環境には自然環境と社会環境（社会）があり、相互に影響しあう。
- ・環境は人間と相互に影響しあい、人間の健康に影響を与える。
- ・社会は個人、家族、集団、地域、国家から構成されている。
- ・社会は人間がよりよく生きていくために、法律、政治、経済、文化、教育、医療、福祉などの機能を有している。

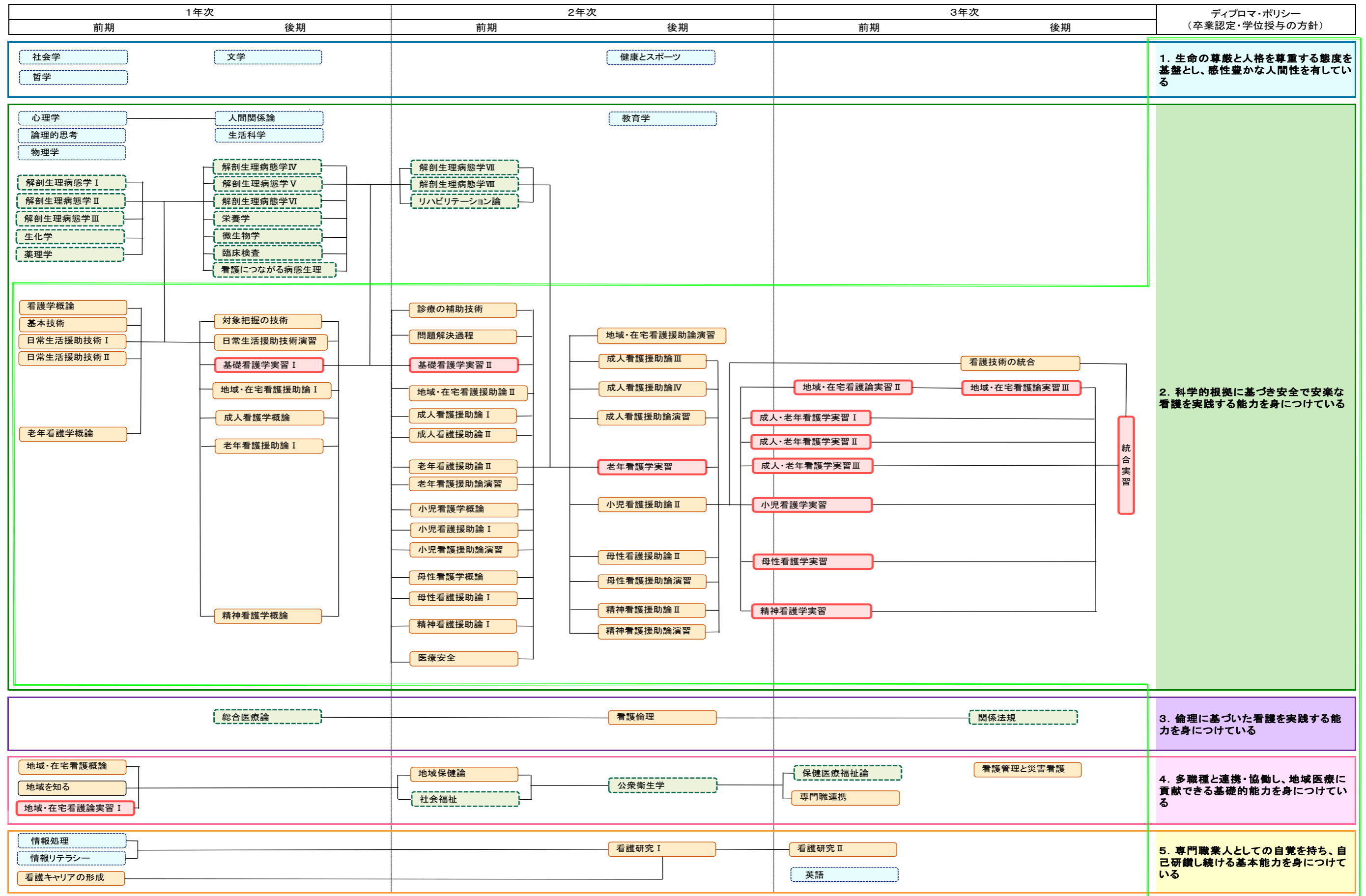
<看護>

- ・看護は専門的知識・技術を駆使し、科学的思考に基づいた意図的な実践活動である。
- ・看護はあらゆる成長発達段階や健康レベルにある個人、家族、集団、地域社会を対象とする。
- ・看護の対象は生活者である。
- ・看護は対象のニーズを充足し、セルフケア能力を高め、その人らしい生活ができるように援助することである。
- ・看護は対象となる人と看護するもの人間と人間の関係における信頼を基盤とした相互作用を通して行うものである。
- ・看護は健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最後まで、その人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的としている。
- ・看護は人々がよりよい健康状態に向かって、絶えず変化し適応をめざしていけるように働きかける。
- ・看護は専門職として独自の機能を有し、保健医療福祉チームのなかで仲介・調整の役割を担う。
- ・看護は対象の健康問題を明確にし、その問題を解決するために系統的に働きかける。
- ・看護は気づかい（ケアリング）である。

<学習・教育>

- ・学習は経験に基づいておこる比較的永続的な行動や認識の変容であり、継続的な人間の成長・成熟過程である。
- ・学習の主権は学習者にあり、学習者は主体的に学習活動を展開する義務をもつ。
- ・学習は内発的動機づけを必要とする。
- ・学習者は多様な価値観と学習のニーズを持ち、成長発達している。
- ・教育は、学習者と教授者が相互作用して、より成長し合うなかで、学習者の能力を引出し、自ら創造していくための意図的な一連の教授活動である。
- ・教授＝学習過程の基本は、学習者と教授者との人間関係における信頼の上に立つことである。
- ・教授者は学習者が有効な学習活動を展開できるよう環境を整え、場を提供することに関して責任を負う。
- ・看護の教授者と学習者は、看護の理論・研究・実践の関係を発展させるために、主体的な思考力と創造力を培う。

2. カリキュラムツリー



基礎分野： 専門基礎分野： 専門分野： 実習：

3. 教育内容

1) 基礎分野

(1) 授業の目的と学習内容

	科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
科学的 思考の 基盤	情報処理	1 (30)	パソコン操作の基礎知識と技術及びインターネットの利用法を身につける。コンピュータを道具として活用し、さまざまな情報の収集と発信を行いながら、よりよい情報の活用法を身につける。	1. パソコンの基本操作 2. アプリケーションソフトの活用 3. 動画の編集
	情報リテラシー	1 (30)	情報倫理について学びを深め、看護専門職として情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養う。	1. 情報倫理 2. 情報リテラシー 3. 情報検索 4. メール・SNSの取り扱い 5. 活用の実際
	論理的思考	1 (30)	論理的な文章の書き方を学ぶことにより、記述力・論理的な思考力を身につける。	1. 論理的思考力 2. 文章を書く 3. 要約
	物理学	1 (15)	物理学の基本法則を理解し、看護に必要な物理的な基礎知識を修得する。	1. 運動と力 2. 熱 3. 音と光 4. 電気と磁気 5. 放射線
	教育学	1 (30)	教育学の基本概念や学校教育の役割や諸問題について学ぶ。教育のもつ意義と役割について知ること、人間理解について考えを深め、看護実践に活かす。	1. 近代教育の誕生とヒューマニズムの教育思想 2. 学校教育のもつ意義と役割 3. 人間の発達と教育 4. 現代教育の課題と対応
	英語	1 (30)	英語の定型句や看護用語・医学用語を学び、将来外国人や医療英語に対応するための英語の能力を身につける。	1. 英語の基礎的文法 2. 看護用語・医療用語 3. 医療・看護現場での会話
人間と生活・ 社会の 理解	生活科学	1 (15)	人間の生活・文化の多様性を理解し、看護に活用する。	1. 食生活と文化 2. 衣服と生活 3. 住まいの工夫 4. 人間の生活、経済活動 5. 人間と環境
	心理学	2 (30)	自己と他者への理解を深めるとともに、自己の再認識、自己と他者への客観性を養う。またカウンセリングの基礎について学ぶ。	1. 人間の心理を理解するための基礎 1) 感覚・知覚の心理 2) 学習・記憶の心理 3) 感情・動機の心理 4) 性格・知能の心理 5) 発達の心理 6) 社会・集団の心理 2. 医療場面での人間理解の展開 1) 健康の心理と人間理解 2) 臨床心理学の基礎とアセスメント 3) カウンセリングと心理療法 4) 行動する人間の理解
	人間関係論	1 (15)	人間関係の成り立ちや対人関係の技法を学ぶ。また保健医療の場における活用をめざす。	1. 人間関係基礎論 2. 人間関係をつくる理論と技法 3. 保健医療における人間関係

	科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
人間と生活・社会の理解	社会学	1 (30)	社会学の基本概念や社会が抱える諸問題について学ぶ。社会的存在としての人間を理解するとともに、社会における人権意識の向上について理解を深める。	1. 社会学の基本概念 2. 家族・仲間集団・マス・メディアの現状と課題 3. 現代社会における人権意識の高まり
	文学	1 (15)	作品の中に綴られている作者の感情や物の見方、考え方を読み取ることを通して自身の物の見方、考え方を広げ、深める。文章の主題を読み取り、まとめる力を養う。	1. 文章の読解 2. 文学作品を通しての心理の読み取り 3. 文章のまとめ方
	哲学	1 (30)	哲学の意義および哲学思想の歴史的歩みを理解する。哲学上の諸課題について優れた先哲の思想を学び取り自らの見識を切磋琢磨する。	1. 哲学と看護 2. 哲学の潮流 3. 哲学の諸課題 4. 世界内存在として実存的に生きる
	健康とスポーツ	1 (30)	スポーツを通して安全と他者理解、協調性を養う。スポーツを楽しむ、心身の健康の維持・増進ができる。	1. 健康とスポーツ 2. スポーツ実践

2) 専門基礎分野

①授業の目的と学習内容

	科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理病態学Ⅰ (解剖生理総論・骨格筋)	1 (30)	人間の正常な身体の構造や機能について学ぶ。また、専門的な看護を实践するための基盤として、病態生理・症状・検査・治療について学ぶ。	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 2. 運動器の構造と機能 3. 症状とその病態生理 4. 検査と治療 5. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅱ (病理総論・呼吸器)	1 (30)		1. 病理学総論 2. 呼吸器系の構造と機能 3. 症状とその病態生理 4. 検査と治療 5. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅲ (循環器)	1 (30)		1. 循環器系の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅳ (消化器)	1 (30)		1. 消化器系の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅴ (脳神経)	1 (30)		1. 脳・神経系の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅵ (血液造血器・腎泌尿器)	1 (30)		血液・造血器 1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解 腎・泌尿器 1. 腎・泌尿器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅶ (内分泌・女性生殖器)	1 (30)		内分泌・アレルギー・膠原病・感染症 1. 内分泌・代謝器官の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解 女性生殖器 1. 女性生殖器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解
	解剖生理病態学Ⅷ (感覚器)	1 (30)		皮膚 1. 皮膚の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解 耳鼻咽喉 1. 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解 眼 1. 眼の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解

	科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進				口腔・菌 1. 菌・口腔の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解
	生化学	1 (15)	生命現象を化学的側面から捉えて、生体内で営まれている現象を学ぶ。	1. 代謝の基礎と酵素・補酵素 2. 糖質の構造と機能、代謝 3. 脂質の構造と機能、代謝 4. タンパク質の構造と機能、代謝 5. 核酸代謝 6. 遺伝情報
	栄養学	1 (30)	生体が正常な営みを行うのに必要な栄養代謝に関する基礎的な知識を学ぶ。また健康な一生を送るための日常生活における栄養管理と疾患別の栄養食事療法の実際を学ぶ。	1. 臨床栄養学の基礎知識 2. 食品成分と食事摂取基準 3. 日常生活と栄養 4. 療養生活と栄養 5. 疾患別の栄養食事療法 6. 栄養食事指導の実際
	薬理学	2 (45)	薬物の特徴や作用機序、人体への影響、薬物の管理について、臨床で活用できる基礎的知識を学ぶ。	1. 薬理学総論 2. 抗がん薬 3. 抗菌薬 4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5. 心臓・血管系に作用する薬 6. 代謝系に作用する薬 7. 消化器系に作用する薬 8. 中枢神経系に作用する薬
	微生物学	1 (15)	微生物の特徴と生物に及ぼす影響を理解するとともに、感染症の予防および関連する疾患について学ぶ。	1. 微生物学の基礎 2. 感染とその防御 3. おもな病原微生物
	臨床検査	1 (15)	おもな臨床検査の基礎を理解し、検査データの読み方と意味を学ぶ。	1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割 3. おもな臨床検査 1) 一般検査 2) 血液学的検査 3) 化学検査 4) 免疫・血清学的検査 5) 内分泌学的検査
	看護につながる病態生理	1 (30)	解剖生理病態学で学んだ知識を基盤にして根拠に基づいた看護が実践できるように、主要な症状・徴候、疾患の病態生理について学ぶ。	1. 病態生理学を学ぶための基礎知識 2. 症状・徴候の病態生理 3. 循環器系疾患の病態生理 4. 呼吸器系疾患の病態生理 5. 消化器系疾患の病態生理
	リハビリテーション論	1 (30)	リハビリテーションの理念と基本原則及び、地域包括ケアシステムのなかにおける多様な場でのリハビリテーション看護のあり方を学ぶ。	1. リハビリテーション概論 2. リハビリテーション看護概論 3. 障害別リハビリテーション看護 4. 関節可動域検査・徒手筋力検査 5. 在宅リハビリテーション 生活の自立度を高める訓練 6. 摂食・嚥下機能のアセスメントとチームによるアプローチ 7. リハビリテーション医療・看護の課題
	総合医療論	1 (15)	生命の尊厳を基盤とした医療に関する基本的な考えを知り現代の保健・医療・福祉のかかえている問題を把握して、社会に貢献する方向性・視点について学ぶ。	1. 医療と看護の原点 2. 医療の歩みと医療官の変遷 3. 私たちの生活と健康 4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線 5. 現代医療の新たな課題 6. 医療を見つめなおす新しい視点 7. 保健・医療・福祉の潮流

	科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	2 (30)	公衆衛生の理念に基づき、健康の捉え方を理解し、疾病予防・健康増進のための各種保健予防活動や環境保健の意義と実際、特定の健康問題に関する公衆衛生活動について学ぶ。	1. 公衆衛生の基礎 2. 公衆衛生の活動対象 3. 公衆衛生のしくみ 4. 環境と健康 5. 集団の健康を捉えるための手法 6. 地域の健康づくり 7. 職場の健康管理 8. 学校保健 9. 地域における公衆衛生の実践 10. 感染症対策、発生時の対応 11. 難病、がん対策 12. 地域医療システム 13. 健康危機管理 14. 災害保健活動
	社会福祉	1 (30)	医療専門職として社会福祉及び社会保障制度と今日の社会福祉が担う役割を理解し、保健・医療・福祉システムの中で、多職種と連携・協働し、地域医療に貢献できる基礎的知識を学ぶ。	1. 社会福祉の理念と意義、専門職の価値と倫理 2. 生活基盤と社会福祉・社会福祉援助技術 3. 社会保障の理念と現状、動向 4. 医療保険制度と地域医療 5. 介護保険制度とは 6. 年金保険制度とは 7. 労働保険制度とは 8. 社会福祉の歴史 9. 社会福祉の現状と課題、多職種連携と協働とは 10. 生活保護に関する法と施策 11. 障害者福祉・児童福祉に関する法と施策 12. 高齢者福祉に関する法と施策 13. 福祉行政の実施体制
	保健医療福祉論	1 (15)	地域における保健・医療・福祉活動の実際を知り、保健・医療・福祉の課題を考察する。	1. 保健・医療・福祉の法律や制度 2. 地域における保健・医療・福祉活動の実際 3. 保健・医療・福祉に関する課題
	関係法規	1 (15)	看護職に関係のある法規について理解し、法的な看護の役割や責任について学ぶ。また生活との結びつきについて学ぶ。	1. 衛生法の意義と沿革 2. 衛生法の分類と厚生行政の仕組み 3. 医事法 4. 保健師助産師看護師法 5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 6. 保健衛生法 7. 労働法

3) 専門分野

(1) 基礎看護学

①授業の目的と学習内容

目的：看護の本質を理解し、看護実践の基盤となる知識・技術・態度を学び、看護の専門性を追求していく基礎的能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容(◎印:実地試験)
看護学概論	1 (30)	看護の概念を理解し、看護の役割と機能について学ぶとともに、看護に対する自己の考え方を育てる。	1. 看護の概念 2. 看護の歴史の変遷 3. 看護理論 4. 看護の役割と機能 5. 看護の提供者 6. 看護サービス提供の場
看護キャリアの形成	1 (15)	理想の看護師像を明確にし、専門職業人として自己研鑽していく必要性を学ぶ。	1. 専門職とは 2. 看護職としてのキャリアの将来像 3. 理想の看護師像 4. 自己のキャリアプラン
基本技術	1 (30)	看護実践の基本となる技術について学ぶ。	1. コミュニケーションに関する基礎知識 2. コミュニケーションの実際 3. 感染と感染予防策の基礎知識 4. 感染源対策 5. 感染経路対策 6. 演習 ◎スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い、必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、使用した器具の感染防止の取扱い、感染性廃棄物の取扱い、◎無菌操作
対象把握の技術	1 (30)	対象把握に必要とされる技術を学び、フィジカルアセスメントを通して得られた情報をアセスメントできる能力を養う。	1. ヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントに必要な技術 3. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系 2) 循環器系 3) 消化器系 4. 身体計測 5. 体温調節の援助 6. 演習 ◎バイタルサイン(呼吸・脈拍・血圧・体温)測定、◎呼吸音の聴取、心音の聴取、腸音の聴取
日常生活援助技術Ⅰ (環境・清潔と衣生活)	1 (30)	対象の看護に必要な基本的な日常生活の援助技術について学ぶ。	環境 1. 生活環境の意義 2. 環境調整の基礎知識 3. 病床の作り方と整備 4. 演習 環境整備、◎クローズドベッドの作成 臥床患者のリネン交換 ----- 清潔と衣生活 1. 清潔・衣生活の意義 2. 清潔援助の基礎知識 3. 清潔を保持する援助 4. 演習 全身清拭、寝衣交換、洗髪、陰部洗浄 手浴、足浴、整容
日常生活援助技術Ⅱ (食事・排泄・活動と休息)	1 (30)	対象の看護に必要な基本的な日常生活の援助技術について学ぶ。	食事 1. 食事の意義 2. 食事援助の基礎知識 3. 事例に合わせた食事介助 4. 非経口的栄養摂取の援助 5. 演習 食事介助

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容(◎印:実体験)
日常生活援助技術Ⅱ (食事・排泄・活動と休息)	1 (30)	対象の看護に必要な基本的な日常生活の援助技術について学ぶ。	排泄 1. 排泄の意義 2. 排泄援助の基礎知識 3. 排泄の援助 4. 排泄障害とその援助 5. 演習 ポータブルトイレ・便器・尿器を用いた援助、おむつ交換 活動と休息 1. 活動・休息の意義 2. 活動の基礎知識 3. 睡眠・休息の基礎知識 4. 睡眠・休息への援助 5. 活動への援助 6. 演習 体位変換、車椅子・ストレッチャーへの移乗と移送
日常生活援助技術演習	1 (30)	学習した知識と技術を活用し、事例に応じた根拠に基づく日常生活援助の実際を学ぶ。	1. 対象に看護を実践する(看護技術を適用する)際に必要な考え方 2. 事例に応じた日常生活援助の実施 3. 実施後のリフレクション 4. 演習 ◎臥床患者のリネン交換、◎おむつ交換、◎寝衣交換、◎陰部洗浄、◎全身清拭、◎洗髪
診療の補助技術	1 (30)	対象の看護に必要な基本的な診療に伴う補助技術について学ぶ。	1. 診察・検査の介助 2. 与薬の基礎知識 3. 与薬の援助 4. 注射の援助 5. 血液検査(静脈血採血) 6. 酸素吸入療法 7. 包帯法 8. 演習 経口与薬、直腸内与薬、経皮的与薬、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射、◎静脈血採血、針刺し事故の防止、包帯法
問題解決過程	1 (30)	看護実践の基盤となる問題解決過程や臨床判断などの思考を学習しながら、看護過程展開のプロセスを理解し、事例の対象に合わせた看護を展開する方法を学ぶ。	1. 看護過程とは 2. 看護過程展開で基盤となる考え方 3. ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開 4. 事例を用いた看護過程の展開
看護倫理	1 (15)	看護実践における倫理的な判断の重要性を理解し、倫理的問題に対処できる基礎的能力を養う。	1. 看護倫理についての基礎知識 2. 看護倫理に関係する重要概念 3. 倫理的意思決定のプロセス 4. 事例検討
看護研究Ⅰ(看護研究の基礎)	1 (15)	看護における研究の意義を理解し、看護研究の基礎を学ぶ。 科学的根拠に基づいた看護を実践するために、文献を活用し、批判的吟味をすることの重要性を理解し、探求心を養う。	1. 看護研究とは 2. 文献レビューとその方法 3. 看護研究における倫理的配慮 4. 研究デザイン 5. 文献のクリティーク 6. 研究計画書の作成
看護研究Ⅱ(ケーススタディ)	1 (30)	ケーススタディの実践を通して研究のプロセス及び研究的態度を学ぶ。	1. ケーススタディの実施 研究計画書の作成 レポートの作成と口頭発表
基礎看護学実習Ⅰ (日常生活の援助)	1 (45)	看護を必要とする対象の生活環境や看護活動の実際を学ぶ。また、対象の看護の必要性を理解し、対象に応じた日常生活援助技術を学ぶ。	実習要綱参照
基礎看護学実習Ⅱ (問題解決過程の基礎)	2 (90)	看護の対象を総合的に理解し、日常生活援助を通して、看護を展開できる基礎的能力を養う。	実習要綱参照

② 看護技術のマトリクス

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（演習）と本校授業科目との関連

■卒業時の到達レベル

<演習> I：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

II：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

項目	技術の種類	卒業時到達度(実習)	卒業時到達度(演習)	1年生	2年生	講義・演習=○ 講義のみ=△ 技術試験=◎																	
				基礎看護学					地域・在宅看護論		成人看護学					老年看護学	小児看護学		母性看護学		精神看護学	看護の統合と実践	専門基礎分野及び科目外
				基本技術	対象把握の技術	日常生活援助技術I(環境・清潔と衣生活)	日常生活援助技術II(食事・排泄・活動と休息)	日常生活援助技術演習	診療の補助技術	地域・在宅看護援助論I(日常生活を支える看護)	地域・在宅看護援助論II(療養生活を支える看護)	成人看護援助論I(総論)	成人看護援助論II(急性期)	成人看護援助論III(回復期)	成人看護援助論IV(慢性期・終末期)	成人看護援助論演習	老年看護援助論I(高齢者の生活を支える看護)	小児看護学概論	小児看護援助論II(健康障害をもつ子どもの看護)	母性看護援助論I(正常経過の看護)	母性看護援助論演習	精神看護援助論演習	医療安全
1. 環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	I	I			○																
	2	臥床患者のリネン交換	II	I			◎クローズドベッド																
2. 食事の援助技術	3	食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	I	I				○															
	4	食事指導	II	II																			
	5	経管栄養法による流動食の注入	II	I				△															
	6	経鼻胃チューブの挿入	III	I				△															
3. 排泄援助技術	7	排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	II	I				○															
	8	膀胱留置カテーテルの管理	III	I									○										
	9	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	III	II				△															
	10	浣腸	III	I																			
	11	摘便	III	I																			
	12	ストーマ管理	III	II																			
4. 活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	I	I				○															
	14	歩行・移動介助	I	I																			
	15	移乗介助	II	I				○															
	16	体位変換・保持	I	I				○															
	17	自動・他動運動の援助	II	I																			
	18	ストレッチャー移送	II	I				○															
5. 清潔・衣生活援助技術	19	足浴	I	I			○																
		手浴	I	I			○																
	20	整容	I	I			○																
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I	I			○																
	22	入浴・シャワー浴の介助	II	I																			
	23	陰部の保清	II	I			○																
	24	清拭	II	I			○																
	25	洗髪	II	I			○																
	26	口腔ケア	II	I																			
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	II	I																			
28	新生児の沐浴・清拭	III	I																				
6. 呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助(本校では電法を実施)	I	I																			
	30	酸素吸入療法の実施	II	I																			
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	II	I																			
	32	口腔内・鼻腔内吸引	III	II																			
	33	気管内吸引	III	II																			
	34	体位ドレナージ	III	I																			

		1年生	2年生	講義・演習=○ 講義のみ=△ 技術試験=◎																						
項目	技術の種類	卒業時到達度(実習)	卒業時到達度(演習)	基礎看護学					地域・在宅看護論		成人看護学					老年看護学	小児看護学		母性看護学		精神看護学	看護の統合と実践	専門基礎分野及び科目外			
				基本技術	対象把握の技術	日常生活援助技術Ⅰ(環境・清潔と衣生活)	日常生活援助技術Ⅱ(食事・排泄・活動と休息)	日常生活援助技術Ⅲ(演習)	診療の補助技術	地域・在宅看護援助論Ⅰ(日常生活を支える看護)	地域・在宅看護援助論Ⅱ(療養生活を支える看護)	成人看護援助論Ⅰ(総論)	成人看護援助論Ⅱ(急性期)	成人看護援助論Ⅲ(回復期)	成人看護援助論Ⅳ(慢性期・終末期)	成人看護援助論Ⅴ(演習)	老年看護援助論Ⅰ(高齢者の生活を支える看護)	小児看護学概論	小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)	母性看護援助論Ⅰ(正常経過の看護)	母性看護援助論Ⅱ(演習)	精神看護援助論Ⅰ(演習)	医療安全	()は科目外		
7. 創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	Ⅱ	Ⅱ																						
	36	創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	Ⅱ	Ⅱ																						
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅲ	Ⅱ																						
8. 与薬の技術	38	経口薬(パッカ錠・内服薬・舌下錠)の投与	Ⅱ	Ⅱ																						
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅱ	Ⅰ																						
	40	坐薬の投与	Ⅱ	Ⅱ																						
	41	皮下注射	Ⅲ	Ⅱ																						
	42	筋肉内注射	Ⅲ	Ⅱ																						
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	Ⅲ	Ⅱ																						
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ	Ⅱ																						
	45	薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)	Ⅲ	Ⅱ																						
9. 救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	Ⅰ	Ⅰ																					○(BLS講習)	
	48	一次救命処置(BLS)	Ⅰ	Ⅰ																					○(BLS講習)	
	49	止血法の実施	Ⅲ	Ⅰ																						
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅰ		◎																				
	51	身体計測(身長・体重・胸囲・腹囲・握力)	Ⅰ	Ⅰ																					身長・体重・胸囲・腹囲・握力(健康診断時)	
	52	フィジカルアセスメント	Ⅱ	Ⅰ		◎																				
	53	検体(尿、血液等)の取扱い	Ⅱ	Ⅰ																						○臨床検査
	54	簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅱ																						
	56	検査の介助	Ⅱ	Ⅰ																						○腰椎穿刺
11. 感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ		◎																				
	58	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱	Ⅰ	Ⅰ		○																				
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	Ⅱ	Ⅰ		○																				
	60	感染性廃棄物の取扱い	Ⅱ	Ⅰ		○																				
	61	無菌操作	Ⅱ	Ⅰ		◎																				
12. 安全管理の技術	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅱ	Ⅰ																					○針刺し事故の防止	
	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	Ⅰ	Ⅰ																					○	
	64	患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ																					○	
	65	安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)	Ⅱ	Ⅰ																						○
	66	放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ																						△(特別講義)
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	Ⅲ	Ⅱ																						△薬理学
	68	医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ)の操作・管理	Ⅲ	Ⅱ																						○
13. 安楽確保の技術	68	医療機器(心電図モニター)の操作・管理	Ⅲ	Ⅱ																						○
	68	医療機器(酸素ボンベ)の操作・管理	Ⅲ	Ⅱ																						○
	68	医療機器(人工呼吸器)の操作・管理	Ⅲ	Ⅱ																						○
	69	安楽な体位の調整	Ⅱ	Ⅰ				○																		
13. 安楽確保の技術	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	Ⅱ	Ⅰ																					△	○産痛緩和・つぼ
	71	精神的安楽を保つためのケア	Ⅱ	Ⅰ																					○	

(2) 地域・在宅看護論

①授業の目的と学習内容

目的：地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における多様な場で多職種と連携・協働しながら、看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
地域・在宅看護概論	1 (30)	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における多様な場での看護を提供するために必要な知識を学び、地域において多職種連携・協働する中での看護の役割を学ぶ。	1. 地域在宅看護の基盤 2. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 3. 地域・在宅看護における倫理 4. 在宅療養者と家族の支援 5. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 6. 地域療養を支える制度
地域を知る	1 (15)	地域に生活する人々や地域の特徴を理解するとともに、環境や生活と健康との関係性などを学ぶ。	1. 地域と生活 2. 地域・在宅看護の背景 3. 地域で暮らす利便性と困難さ 4. 環境や生活と健康との関係性 5. 地域を支えるために自分たちにできること
地域保健論	1 (30)	地域で生活する人々とその家族の健康の保持・増進、また健康課題の解決に向けた看護の役割を学ぶ。	1. 各ライフステージにおける住民を取り巻く社会の現状 2. 地域における母子保健活動 3. 地域における成人保健活動 4. 地域における高齢者保健活動 5. 地域における精神・障害者（児）に対する保健活動
地域・在宅看護援助論Ⅰ（日常生活を支える看護）	1 (30)	地域で生活する人々に対するセルフケア能力を高めるための指導技術、及び既習した基礎看護技術を在宅における看護に応用する方法を学ぶ。	1. セルフケア能力を高めるための指導技術 個別指導、集団指導 2. 日常生活を支える看護技術 3. 社会資源の活用 4. 演習 入浴・シャワー浴の介助
地域・在宅看護援助論Ⅱ（療養生活を支える看護）	1 (30)	地域で療養する人々とその家族の療養生活を支える医療ケアについて理解し、退院に向けての支援のあり方や在宅療養中の指導及び看護の実践に役立つ基礎的知識を学ぶ。	1. 療養を支える看護技術（医療ケア） 2. 医療ケアを必要とする在宅療養者とその家族への支援 3. 地域在宅看護の介入時期別看護 4. 在宅療養を支える健康危機・災害対策 5. 演習 摘便、経管栄養法・経鼻胃チューブの挿入
地域・在宅看護援助論演習	1 (30)	地域で療養する人々とその家族に対する生活の場での看護を展開する方法、及び事例や場面に応じた援助方法や物品の工夫を学ぶ。	1. 地域における初回家庭訪問 2. 事例を用いた看護過程の展開 3. 事例や場面に応じた援助方法と物品の工夫の実際
地域・在宅看護論実習Ⅰ（地域）	2 (90)	地域で療養する人々とその家族及び看護が提供される多様な場を理解するとともに、保健・医療・福祉システムの中で様々なサービスに支えられている療養生活の実際を知る。	実習要綱参照
地域・在宅看護論実習Ⅱ（訪問看護ステーション）	1 (45)	地域で療養する人々とその家族を理解し、生活の場で多職種と連携・協働しながら看護が実践できる基礎的能力を養う。	実習要綱参照
地域・在宅看護論実習Ⅲ（市役所・地域包括支援センター）	1 (45)	地域で生活する人々とその家族を支えるために必要な保健・医療・福祉システムにおける多職種連携・協働の重要性を理解し、地域での看護の役割を学ぶ。	実習要綱参照

(3) 成人看護学

①授業の目的と学習内容

目的：成人期の対象を総合的に理解し、健康のあらゆるレベルにある成人を対象に看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
成人看護学概論	1 (15)	社会において主要な役割を担っている成人各期の成長発達の特徴を理解する。成人各期を生きる人の持つ力を生かした看護援助をするために必要な知識を学ぶ。	1. 対象の理解 2. 成人への看護アプローチの基本 3. 健康をおびやかす要因と看護 4. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 5. 慢性病とともに生きる人を支える看護
成人看護援助論Ⅰ (総論)	1 (30)	健康状態の経過における特徴、対象のニーズ、看護援助を学ぶ。また、救急及び周手術期にある対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。	1. 健康状態の経過における看護 2. 救急看護 3. 周手術期の看護 4. 演習 止血法の実施、人工呼吸器の操作・管理、ガウンテクニック
成人看護援助論Ⅱ (急性期)	1 (30)	急激な健康状態の変化により生命危機状態にある成人期の対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。	1. 急性期にある患者の看護 1) 消化器疾患をもつ患者の看護 2) 循環器疾患をもつ患者の看護 3) 呼吸器疾患をもつ患者の看護 2. 演習 ストーマ管理、体位ドレナージ、心電図モニターの操作・管理
成人看護援助論Ⅲ (回復期)	1 (30)	急性期を脱し機能の回復や生活の再構築、社会復帰に向けてリハビリテーションを必要とする成人期の対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。	1. 回復期にある患者の看護 1) 脳・神経疾患をもつ患者の看護 2) 運動器疾患をもつ患者の看護 3) 腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護 4) 眼・耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護 2. 演習 膀胱留置カテーテルの管理
成人看護援助論Ⅳ (慢性期・終末期)	1 (30)	疾患や機能障害をかかえながら生活を営んでいくことが必要な成人期の対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。また、最期までその人らしく生きてゆくことを支援する看護援助に必要な知識・技術を修得する。	1. 慢性期・終末期にある患者の看護 1) 内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護 2) 膠原病をもつ患者の看護 3) 感染症をもつ患者の看護 4) 血液・造血器疾患をもつ患者の看護 5) がん薬物療法と看護 6) 緩和ケアと看護 2. 演習 簡易血糖測定、輸血の管理
成人看護援助論演習	1 (30)	事例を通し、成人期にある健康障害をもつ対象の看護上の問題を理解し、対象に応じた看護を展開する方法を学ぶ。また、既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護が実践できる基礎的能力を身につける。	1. 事例を用いた看護過程の展開 2. 演習 食事指導、ドレーン類の挿入部の処置、点滴静脈内注射の管理、点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、術後の観察
成人・老年看護学 実習Ⅰ (急性期)	2 (90)	周手術期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。 ※老年看護学と共通	実習要綱参照
成人・老年看護学 実習Ⅱ (回復期)	2 (90)	回復期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。 ※老年看護学と共通	実習要綱参照
成人・老年看護学 実習Ⅲ (慢性期・終末期)	2 (90)	慢性期・終末期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。 ※老年看護学と共通	実習要綱参照

②成人看護学マトリックス

各テキスト
国家試験出題基準参照

器官系統別	成人看護援助論I (総論)				成人看護援助論II (急性期)				成人看護援助論III (回復期)				成人看護援助論IV (慢性期・終末期)							
	健康状態の経過における看護	救急看護	周手術期看護	試験	消化器疾患をもつ患者の看護	循環器疾患をもつ患者の看護	呼吸器疾患をもつ患者の看護	まとめ試験	脳・神経疾患をもつ患者の看護	運動器疾患をもつ患者の看護	腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護	眼・耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護	まとめ試験	内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護	膠原病疾患をもつ患者の看護	感染症疾患をもつ患者の看護	血液・造血器疾患をもつ患者の看護	がん薬物療法と看護	緩和ケア	まとめ試験
時間配分	9	10	10	1	8	10	10	2	8	8	8	4	2	8	2	2	10	2	4	2
配点	30	35	35		30	35	35		30	30	30	10		30	10	10	30	10	10	
第1章		救急看護の概念 患者の特徴 看護の役割	周手術期看護の概 論		患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割		患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割		患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	患者の特徴 看護の役割	
患者の看護	症状に対する看護	急性期における看護 急性期の特徴 急性期の患者のニーズ 急性期にある患者への看護援助 回復期における看護 回復期の特徴 回復期の患者のニーズ 回復期にある患者への看護援助 慢性期における看護 慢性期の特徴 慢性期の患者のニーズ 慢性期にある患者への看護援助	術後合併症 術後出血 深部静脈血栓、肺血栓塞栓症 感染症 廃用症候群 消化器合併症 体外傷 熱傷 中毒		嚥下困難 おくび・胸やけ 吐きけ・嘔吐 腹痛 吐血・下血 下痢・便秘 腹部膨満 食欲不振と体重減少 腹水 黄疸 意識障害(肝性脳症)	胸痛 動悸 浮腫 呼吸困難 チアノーゼ めまい・失神 不整脈 動脈硬化	咳嗽・喀痰 血痰・咯血 胸痛 呼吸困難 他覚症状		意識障害 高次脳機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 自律性のある機能障害 頭蓋内圧亢進 脳ヘルニア 髄膜刺激症状 頭痛 めまい	疼痛 形態の異常 関節運動の異常 神経の障害 跛行 筋肉の障害	蓄尿・排尿症状 浮腫 高血圧 血尿 尿毒症 疼痛 腫脹・腫瘍	視機能に関連した症状 視力障害/視野異常 /色覚異常など 視機能に関連しない症状 充血/流涙/眼脂など 耳にあらわれる症状 難聴/耳鳴/眩暈など 鼻にあらわれる症状 鼻閉/くしゃみ/嗅覚障害など 口腔・唾液腺・咽頭にあらわれる症状 咽頭痛/呼吸障害など 喉頭に現れる症状 音声・言語障害/呼吸障害など		体重の変化・身長 の異常 容貌の変化 神経・筋症状 循環器症状 消化器症状 皮膚の変化 無月経	関節痛・関節炎 レイノー現象 皮膚・粘膜症状 発熱 タンパク尿 筋力低下 血管炎に伴う症状	発熱 発疹 下痢	貧血 発熱 リンパ節腫脹・脾腫 出血傾向 易感染(白血球減少)		緩和ケアにおける チームアプローチ 意思決定支援 全人的ケア 臨死期のケア 家族のケア	
	検査を受ける患者の看護	終末期・臨死期における看護 終末期の特徴 終末期の患者のニーズ 終末期にある患者への看護援助			腹部超音波検査 消化器内視鏡検査 肝生検 放射線検査・造影検査	心電図 心エコー法 心臓カテーテル法 中心静脈圧	喀痰検査(培養・細胞診) 動脈血ガス分析 気管支鏡 胸腔穿刺 胸腔鏡下肺生検 呼吸機能検査		脳血管撮影 脳検査 脳脊髄液検査・生検	神経診察 X線検査 磁気共鳴造影法(MRI) 骨髄造影検査 関節造影検査 関節鏡検査	尿検査、残尿測定 腎機能検査 画像検査：静脈性尿路造影(IVU)・逆行性腎盂造影(RP)・膀胱造影・尿道造影 膀胱鏡検査 腎生検 膀胱組織検査・前立腺組織検査 尿流動態検査	眼底検査 聴力検査 経鼻内視鏡検査 味覚検査	ホルモン血中・尿中濃度測定 ホルモン負荷試験 糖負荷試験(OGTT) 血糖自己測定(SMBG)	血液・免疫学的検査	検体採取	末梢血検査 骨髄穿刺 骨髄生検				
	治療・処置を受ける患者の看護	一次救命処置 二次救命処置 止血法 ※一次救命処置、自動体外式除細動器(AED)授業時間外に実施	術前看護 術中看護 手術体位とその影響 麻酔導入時 気管挿管 安全管理(セーフティマネジメント) 術後看護		栄養・食事療法 内視鏡手術 開腹手術 腹腔鏡下手術 術後ドレナージ ストーマ造設術	薬物療法 経皮冠動脈インターベンション(PCI) ペースメーカー 冠動脈バイパス術 弁置換術・弁形成術 大血管再建術 補助循環装置 心臓リハビリテーション	吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション 気道確保 気管切開 胸腔ドレナージ 手術療法：開胸術・胸腔鏡下手術		手術：開頭術、穿頭術、血管バイパス術、血管内治療、脳室ドレナージ術、脳室-腹腔(V-P)シャント術 薬物療法 低温療法	ギプス固定 副子固定 牽引療法 手術療法	透析療法 薬物療法(降圧薬・利尿薬、免疫抑制薬) 泌尿科的治療：導尿、カテーテル留置(腎臓カテーテル・膀胱瘻) 手術療法 放射線療法 腎移植	眼底凝固療法 網膜剥離手術 眼内レンズ挿入術 鼓室形成術	食事療法・運動療法 薬物療法 感染予防 抗真菌薬 抗ウイルス薬	放射線療法 造血幹細胞移植 輸血療法	がん薬物療法 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露防止策の実施					
疾患をもつ患者の看護				胃がん 大腸がん 食道疾患 胃・十二指腸疾患 腸・腹膜疾患 肝臓・胆嚢疾患 腎疾患	虚血性心疾患 心不全 不整脈 弁膜症 心筋症 動脈系疾患：動脈瘤・動脈閉塞性疾患・静脈閉塞性疾患	肺炎 結核 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 肺血栓塞栓症 急性呼吸窮迫症候群 睡眠時無呼吸器症候群 肺がん 自然気胸		クモ膜下出血 脳梗塞 脳腫瘍 下脳体膿腫 頭部外傷 筋ジストロフィー 重症筋無力症 多発性硬化症 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症 髄膜炎	大腿骨頭骨骨折・大腿骨転子部骨折 腰椎椎間板ヘルニア 脊髄損傷 骨髄傷 変形性膝関節症	腎・尿路結石 腫瘍(膀胱がん、前立腺がん) 慢性感染性腎不全・腎障害	中途視覚障害 白内障 緑内障 網膜剥離 突発性難聴 慢性中耳炎 メニエール病 喉頭がん	下垂体疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 糖尿病 脂質異常症	関節リウマチ 全身エリテマトーデス	HIV感染症 エイズ 日和見感染	白血病 悪性リンパ腫					
技術演習		医療機器(人工呼吸器)の操作・管理、止血法の実施	※気管挿管・カウテック	ストーマ管理	医療機器(心電図モニター)の操作・管理	体位ドレナージ				膀胱留置カテーテル管理			簡易血糖測定			輸血の管理	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露防止策の実施(講義のみ)			
成人看護援助論演習で実施する技術との関連			ドレイン類の挿入部の処置/点滴静脈注射の管理/点滴・ドレイン等を留置している患者の寝衣交換			口腔・鼻腔・気管内吸引(講義含む)				導尿または膀胱留置カテーテルの挿入										
テキスト	臨床看護総論(医書)	臨床看護総論(医書)、基礎看護技術II(医書)、救急看護学(医書)	臨床看護総論(医書)	成人看護学5(医書) 臨床外科看護各論(医書)	成人看護学3(医書) 臨床外科看護各論(医書)	成人看護学2(医書) 臨床外科看護各論(医書)		成人看護学7(医書)	成人看護学10(医書)	成人看護学8(医書)	成人看護学13(医書) 成人看護学14(医書)		成人看護学6(医書)	成人看護学11(医書)	成人看護学11(医書)	成人看護学4(医書)	別巻 がん看護学(医書)	緩和ケア(医書)		

(4) 老年看護学

①授業の目的と学習内容

目的：老年期の特徴を理解し、加齢及び健康障害をもつ高齢者とその家族に対して、生活機能の観点から看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容(◎印:実試験)
老年看護学概論	1 (30)	老年期の特徴を理解し、老年看護の機能と役割について学ぶ。	1. 老いの理解 2. 老年看護における理論・概念の活用 3. 高齢者のヘルスアセスメント 4. 身体に加齢変化とアセスメント 5. 健康逸脱からの回復を促す看護 6. エンドオブライフケア
老年看護援助論Ⅰ (高齢者の生活を支える看護)	1 (30)	加齢や健康障害に伴う生活機能の低下を理解し、必要な援助の方法について学ぶ。	1. 日常生活を支える基本動作 2. 食生活を支える看護 3. 排泄を支える看護 4. 清潔を支える看護 5. 生活リズムを整える看護 6. コミュニケーション 7. 認知症 8. 演習 ◎浣腸、口腔ケア、褥瘡予防ケア、創洗浄、創保護、安全な療養環境の整備
老年看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ高齢者の看護)	1 (15)	加齢や健康障害が心身に及ぼす影響を理解し、治療を必要とする高齢者の看護について学ぶ。	1. 検査を受ける高齢者の看護 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護 3. 手術を受ける高齢者の看護 4. 入院治療を受ける高齢者の看護 5. 高齢者と医療安全 6. リハビリテーションを受ける高齢者の看護
老年看護援助論演習	1 (30)	老年期にある健康障害をもった対象の健康上の課題を理解し、生活機能の観点から個々に応じた看護を展開する方法を学ぶ。	1. 事例を用いた看護過程の展開 2. 技術の実際 3. レクリエーション
老年看護学実習 (介護老人保健施設)	2 (90)	老年期にある対象の特徴を理解し、生活機能の観点から看護が実践できる能力を養う。	実習要綱参照
成人・老年看護学 実習Ⅰ(急性期)	2 (90)	周手術期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。 ※成人看護学と共通	実習要綱参照
成人・老年看護学 実習Ⅱ(回復期)	2 (90)	回復期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。 ※成人看護学と共通	実習要綱参照
成人・老年看護学 実習Ⅲ(慢性期・終末期)	2 (90)	慢性期・終末期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。 ※成人看護学と共通	実習要綱参照

(5) 小児看護学

①授業の目的と学習内容

目的：小児各期の発達段階の特徴を理解し、成長発達に応じた養護と健康障害をもつ子どもと家族に対する看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
小児看護学概論	1 (30)	子どもの正常な成長発達を学習し、小児看護の特徴や機能・役割について理解し、小児看護の実践のために必要な基礎的知識を学ぶ。	1. 小児看護の理念と変遷 2. 子どもと家族を取り巻く社会 3. 小児看護における倫理 4. 小児看護の対象 5. 子どもの成長と発達 6. 子どものアセスメント 7. 災害時の看護 8. 演習 小児の身体計測
小児看護援助論Ⅰ (子どもの健康障害)	1 (15)	子どもに起こりやすい健康障害について、各系統別に、主な疾患の病態・症状・診断・治療を学ぶ。	1. 発達・先天異常 2. 新生児の疾患 3. 代謝性疾患・内分泌疾患 4. 免疫・アレルギー疾患 5. 感染症 6. 呼吸器疾患 7. 循環器疾患 8. 消化器疾患 9. 血液・造血器疾患 10. 悪性新生物 11. 腎・泌尿器疾患 12. 神経疾患 13. 感覚器疾患 14. 精神疾患 15. 事故・外傷
小児看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ子どもの看護)	1 (30)	小児看護の特徴を踏まえ健康障害が子ども・家族に与える影響について考えるとともに発達段階・病期に応じた看護が実践できるための知識を学ぶ。	1. 健康障害をもつ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 3. 子どもにおける疾病の経過と看護 4. 子どものアセスメント 5. 症状を示す子どもの看護 6. 検査・治療を受ける子どもの看護 7. 新生児の看護 8. 演習 氷枕、酸素ボンベ、ネブライザーを用いた気道内加湿、輸液ポンプ・シリンジポンプ、腰椎穿刺時の介助
小児看護援助論演習	1 (30)	既習学習を想起し、活用しながら一般的な子どもの成長発達を理解し、疾病や障害をもつ子どもへの看護につなげる。	1. 子どもの成長発達に応じた養育 2. 子どもの成長発達の実際を把握するための体験学習(保育体験) 3. 事例に応じた援助計画
小児看護学実習	2 (90)	小児各期の発達段階の特徴を踏まえ、健康障害をもつ子どもと家族を対象に看護が実践できる能力を養う。	実習要綱参照

(6) 母性看護学

①授業の目的と学習内容

目的：妊産褥婦と新生児への看護及び母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とした看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
母性看護学概論	1 (30)	母性看護の基盤となる概念、リプロダクティブ・ヘルスの基礎や動向を理解し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とした看護を学ぶ。	1. 母性看護の基盤となる概念 2. リプロダクティブ・ヘルスの基礎や動向 3. 母性看護における倫理 4. 生殖に関する生理 5. 女性のライフステージ各期における看護 6. 災害時の妊産婦と家族への支援
母性看護援助論Ⅰ (正常経過の看護)	1 (15)	正常経過にある妊産褥婦と新生児及びその家族への看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。	1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア 2. 妊娠期における看護 3. 分娩期における看護 4. 産褥期における看護 5. 新生児期における看護
母性看護援助論Ⅱ (異常経過の看護)	1 (30)	異常経過にある妊産褥婦と新生児及びその家族への看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。	異常 1. 遺伝相談と家族計画 2. 妊娠の異常 3. 分娩の異常 4. 新生児の異常 5. 産褥の異常 看護 1. ハイリスク妊婦の看護 2. 異常のある産婦・褥婦の看護 3. 児を亡くした褥婦・家族の看護 4. メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援
母性看護援助論演習	1 (30)	妊娠・分娩・産褥期及び早期新生児期の看護に必要な看護技術の方法・根拠を理解し、母子の看護が実践できる基礎的能力を養う。	1. 母性看護に必要な看護技術 2. アセスメント（ウエルネスの考え方） 1) 妊婦 2) 褥婦 3) 新生児 3. 演習 1) 妊婦 NST、レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定 2) 産婦 産痛緩和 3) 褥婦 子宮底の測定 4) 新生児 沐浴、抱き方・寝かせ方
母性看護学実習	2 (90)	母性看護の特性を理解し、妊娠・分娩・産褥及び新生児期にある母子とその家族に応じた看護が実践できる能力を養う。	実習要綱参照

(7) 精神看護学

①授業の目的と学習内容

目的：人間の心の構造とはたらきを学び、心の健康の保持増進、精神障害の予防、また精神障害の回復を援助するための看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
精神看護学概論	1 (30)	精神看護の意義や心の構造とはたらきについて理解するとともに、精神保健福祉の歴史と法制度について学ぶ。	1. 精神保健の考え方 2. 人間の心のはたらきと人格の形成 3. 関係のなかの人間 4. ケアの人間関係 5. 精神保健福祉の歴史と法制度 6. 精神看護における倫理
精神看護援助論Ⅰ (精神障害の理解)	1 (15)	精神障害の分類及びそれらの成因、臨床症状、治療方法等について系統的に学ぶ。	1. 精神科疾患のあらわれ方 2. 精神科での治療
精神看護援助論Ⅱ (精神障害者の看護)	1 (30)	精神障害をもつ対象に応じた看護が実践できるための基礎的知識を学ぶ。	1. 回復を支援する 2. 入院治療の意味 3. 身体をケアする 4. 安全を守る
精神看護援助論演習	1 (30)	精神看護に必要な基礎的知識、技術について演習を通し修得する。また、これまでに学んだ精神看護学の基礎的知識を統合して、提示された事例に対し、看護を展開する方法を学ぶ。	1. ケアの人間関係 2. 関係をアセスメントする (プロセスレコードの活用) 3. 精神科におけるコミュニケーション 4. 回復のためのプログラム (ソーシャルスキルトレーニング) 5. 事例を用いた看護過程の展開 6. 演習 精神的安寧を保つためのケア
精神看護学実習	2 (90)	精神障害をもつ対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。	実習要綱参照

(8) 看護の統合と実践

①授業の目的と学習内容

目的：既習の知識・技術・態度を統合し、保健・医療・福祉チームの一員として看護が実践できる能力を養う。

科目	単位 (時間)	授業の目的	学習内容
医療安全	1 (30)	看護・医療事故の基礎的知識を学び、安全で質の高い看護を提供するために、事故の危険を予測し回避する方法を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方 3. わが国の医療安全対策 4. チーム医療におけるコミュニケーションの重要性 5. 療養上の世話の事故防止 6. 診療の補助の事故防止 7. 看護師の労働安全衛生上の事故防止(針刺し事故含む) 8. 演習 インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告、患者の誤認防止策の実施
看護管理と災害看護	1 (30)	看護援助の提供に関わるマネジメントの基礎的知識を学ぶ。また、健康と保健医療の世界的課題を学ぶ。	看護管理 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント 3. 看護職のキャリアマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 5. マネジメントに必要な知識と技術 6. 看護を取り巻く諸制度 7. 健康を取り巻く世界の情勢と国際看護
		災害医療及び災害看護の基礎的知識を学ぶ。	災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護を学ぶにあたって 2. 災害看護の基礎知識 3. 地震災害看護の展開 4. こころのケア 5. EMIS
専門職連携	1 (15)	保健・医療・福祉システムにおける多職種役割を理解し、連携・協働できる基礎的能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化と多職種連携・協働の必要性 2. 事例検討 3. 多職種連携・協働における各職種が担う役割
看護技術の統合	1 (30)	既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の受け持ち患者への看護多重課題 2. 対象の状況に応じた看護客観的臨床能力試験 (OSCE)
統合実習	2 (90)	既習の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として看護が実践できる能力を養う。	実習要綱参照

4. 教育計画・評価計画（講義）

1) 1年次

※テスト時間の2時間にはまとめの時間を含むものがある
別途シラバスを参照する

教育内容	授業科目	単元	単位	時間数	授業時間	テスト時間	授業時間外	開講時期	評価配分	
基礎分野	科学的思考の基盤	情報処理	1	30	28	2		前期	100	
		情報リテラシー	1	30	28	2		前期	100	
		論理的思考	1	30	28	2		前期	100	
		物理学	1	15	14	1		前期	100	
	人間と生活、社会の理解	生活科学	1	15	14	1		後期	100	
		心理学	2	30	28	2		前期	100	
		人間関係論	1	15	14	1		後期	100	
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理病態学Ⅰ（解剖生理総論・骨格筋）	1	30	28	2		前期	100	
		解剖生理病態学Ⅱ（病理総論・呼吸器）	1	30	28	2		前期	100	
		解剖生理病態学Ⅲ（循環器）	1	30	28	2		前期	100	
		解剖生理病態学Ⅳ（消化器）	1	30	28	2		後期	100	
		解剖生理病態学Ⅴ（脳神経）	1	30	28	2		後期	100	
		解剖生理病態学Ⅵ（血液・造血器・腎泌尿器）	血液・造血器	1	30	14		○	後期	50
			腎・泌尿器			16		○	後期	50
		生化学	1	15	14	1		前期	100	
		栄養学	1	30	28	2		後期	100	
		薬理学	2	45	44	1		前期・後期	100	
		微生物学	1	15	14	1		後期	100	
		臨床検査	1	15	14	1		後期	100	
看護につながる病態生理	1	30	28	2		後期	100			
学生会社	総合医療論	1	15	14	1		後期	100		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	28	2		前期	100	
		看護キャリアの形成	1	15	15			前期	100	
		基本技術	1	30	28	2	技術試験あり	前期	100	
		対象把握の技術	1	30	28	2	技術試験あり	後期	100	
		日常生活援助技術Ⅰ（環境・清潔と衣生活）	環境	1	30	14		技術試験あり	前期	50
			清潔と衣生活			16		○	前期	50
		日常生活援助技術Ⅱ（食事・排泄・活動と休息）	食事	1	30	10		○	前期	40
			排泄			10		○	前期	30
			活動と休息			10		○	前期	30
		日常生活援助技術演習	1	30	30		技術試験あり	後期	100	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	30	28	2		前期・後期	100	
		地域を知る	1	15	15			前期	100	
		地域・在宅看護援助論Ⅰ（日常生活を支える看護）	1	30	28	2		後期	100	
	成人看護学	成人看護学概論	1	15	14	1		後期	100	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	28	2		前期・後期	100	
		老年看護援助論Ⅰ（高齢者の生活を支える看護）	1	30	28	2	技術試験あり	後期	100	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	28	2		後期	100	

2) 2年次

※テスト時間の2時間にはまとめの時間を含むものがある
別途シラバスを参照する

教育内容	授業科目	単元	単位	時間数	授業時間	テスト時間	授業時間外	開講時期	評価配分	
基礎分野	教育学		1	30	28	2		後期	100	
	健康とスポーツ		1	30	28	2		前期・後期	100	
専門基礎分野	解剖生理病態学Ⅶ(内分泌・女性生殖器)	内分泌・アレルギー・膠原病・感染症	1	30	16		○	前期	50	
		女性生殖器			14		○	前期	50	
	解剖生理病態学Ⅷ(感覚器)	皮膚	1	30	8		○	前期	25	
		耳鼻咽喉			8		○	前期	25	
		眼			8		○	前期	25	
		口腔・歯			6		○	前期	25	
	リハビリテーション論		1	30	28	2		前期・後期	100	
	公衆衛生学		2	30	28	2		後期	100	
	社会福祉		1	30	28	2		前期	100	
	専門分野	基礎看護学	診療の補助技術	1	30	28	2	技術試験あり	前期	100
問題解決過程			1	30	28	2		前期	100	
看護倫理			1	15	15			後期	100	
看護研究Ⅰ(看護研究の基礎)			1	15	15			後期	100	
地域・在宅看護論		地域保健論	1	30	28	2		前期	100	
		地域・在宅看護援助論Ⅱ(療養生活を支える看護)	1	30	28	2		前期・後期	100	
		地域・在宅看護援助論演習	1	30	30			後期	100	
成人看護学		成人看護援助論Ⅰ(総論)	1	30	29	1		前期	100	
		成人看護援助論Ⅱ(急性期)	1	30	28	2		前期	100	
		成人看護援助論Ⅲ(回復期)	1	30	28	2		前期・後期	100	
		成人看護援助論Ⅳ(慢性期・終末期)	1	30	28	2		後期	100	
		成人看護援助論演習	1	30	30			後期	100	
老年看護学		老年看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ高齢者の看護)	1	15	14	1		前期	100	
		老年看護援助論演習	1	30	30			前期・後期	100	
小児看護学		小児看護学概論	1	30	28	2		前期	100	
		小児看護援助論Ⅰ(子どもの健康障害)	1	15	14	1		前期	100	
		小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)	1	30	28	2		前期・後期	100	
		小児看護援助論演習	1	30	30			前期・後期	100	
母性看護学		母性看護学概論	1	30	28	2		前期	100	
		母性看護援助論Ⅰ(正常経過の看護)	1	15	14	1		前期	100	
		母性看護援助論Ⅱ(異常経過の看護)	異常	1	30	16		○	前期・後期	50
			看護			14		○	後期	50
		母性看護援助論演習	1	30	30			後期	100	
精神看護学	精神看護援助論Ⅰ(精神障害の理解)	1	15	14	1		前期	100		
	精神看護援助論Ⅱ(精神障害者の看護)	1	30	28	2		前期・後期	100		
	精神看護援助論演習	1	30	30			後期	100		
実合の看護と統	医療安全		1	30	28	2		前期・後期	100	

3) 3年次

※テスト時間の2時間にはまとめの時間を含むものがある
別途シラバスを参照する

教育内容		授業科目	単元	単位	時間数	授業時間	テスト時間	授業時間外	開講時期	評価配分	
分野	基礎	英語		1	30	28	2		前期	100	
分野	専門基礎	健康医療福祉論	保健医療福祉論	1	15	15			前期	100	
			関係法規	1	15	14	1		後期	100	
分野	専門基礎	看護研究Ⅱ(ケーススタディ)	看護研究Ⅱ(ケーススタディ)	1	30	30			前期	100	
			看護管理と災害看護	看護管理	1	30	14		○	後期	50
				災害看護			16		○	後期	50
			専門職連携		1	15	15			前期	100
			看護技術の統合と実践		1	30	30		技術試験あり	後期	100

5. シラバス

1 1 学年

2 2 学年

3 3 学年

教育内容		授 業 科 目						
基礎分野 A	科学的思考の基盤	①情報処理	1	②情報リテラシー	1	③論理的思考	1	
		④物理学	1	⑤教育学	2	⑥英語	3	
	人間と生活・社会の理解	⑦生活科学	1	⑧心理学	1	⑨人間関係論	1	
		⑩社会学	1	⑪文学	1	⑫哲学	1	
	⑬健康とスポーツ	2						
専門基礎分野 B	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	①解剖生理病態学Ⅰ(解剖生理総論・骨格筋)	1	②解剖生理病態学Ⅱ(病理総論・呼吸器)	1	③解剖生理病態学Ⅲ(循環器)	1	
		④解剖生理病態学Ⅳ(消化器)	1	⑤解剖生理病態学Ⅴ(脳神経)	1	⑥解剖生理病態学Ⅵ(血液造血器・腎泌尿器)	1	
		⑦解剖生理病態学Ⅶ(内分泌・女性生殖器)	2	⑧解剖生理病態学Ⅷ(感覚器)	2	⑨生化学	1	
		⑩栄養学	1	⑪薬理学	1	⑫微生物学	1	
		⑬臨床検査	1	⑭看護につながる病態生理	1	⑮リハビリテーション論	2	
	健康支援と社会保障制度	①総合医療論	1	②公衆衛生学	2	③社会福祉	2	
		④保健医療福祉論	3	⑤関係法規	3			
	専門分野 C	基礎看護学	①看護学概論	1	②看護キャリアの形成	1	③基本技術	1
			④対象把握の技術	1	②日常生活援助技術Ⅰ(環境・清潔と衣生活)	1	③日常生活援助技術Ⅱ(食事・排泄・活動と休息)	1
			⑦日常生活援助技術演習	1	⑧診療の補助技術	2	⑨問題解決過程	2
⑩看護倫理			2	⑪看護研究Ⅰ(看護研究の基礎)	2	⑫看護研究Ⅱ(ケーススタディ)	3	
地域・在宅看護論		①地域・在宅看護概論	1	②地域を知る	1	③地域保健論	2	
		④地域・在宅看護援助論Ⅰ(日常生活を支える看護)	1	⑤地域・在宅看護援助論Ⅱ(療養生活を支える看護)	2	⑥地域・在宅看護援助論演習	2	
成人看護学		①成人看護学概論	1	②成人看護援助論Ⅰ(総論)	2	③成人看護援助論Ⅱ(急性期)	2	
		④成人看護援助論Ⅲ(回復期)	2	⑤成人看護援助論Ⅳ(慢性期・終末期)	2	⑥成人看護援助論演習	2	
老年看護学		①老年看護学概論	1	②老年看護援助論Ⅰ(高齢者の生活を支える看護)	1	③老年看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ高齢者の看護)	2	
		③老年看護援助論演習	2					
小児看護学		①小児看護学概論	2	②小児看護援助論Ⅰ(子どもの健康障害)	2	③小児看護援助論Ⅱ(健康障害をもつ子どもの看護)	2	
		④小児看護援助論演習	2					
母性看護学		①母性看護学概論	2	②母性看護援助論Ⅰ(正常経過の看護)	2	③母性看護援助論Ⅱ(異常経過の看護)	2	
		④母性看護援助論演習	2					
精神看護学		①精神看護学概論	1	②精神看護援助論Ⅰ(精神障害の理解)	2	③精神看護援助論Ⅱ(精神障害者の看護)	2	
		④精神看護援助論演習	2					
看護の統合と実践		①医療安全	2	②看護管理と災害看護	3	③専門職連携	3	
		④看護技術の統合	3					

6. シラバスの見方

シラバスには各授業科目の詳細な授業計画を示している。

単位の修得は、授業を受けるだけでなく、各自が必要な予習復習を自主的に行なうことを前提とする。シラバスの内容を確認し、テキストや参考図書を活用して学びを深める。

具体的な学習内容、方法については、別途、授業の中で担当教員から提示される。

分野		担当者 (職種)	担当講師の授業科目に関連する 実務経験を示している
授業科目		実務経験	有(無) (〇〇に〇年以上勤務)
单元名		単位数(時間数)	〇単位(〇時間)
対象学年・学期	〇学年・前期	DPとの関連	DP〇
授業の目的	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 前期：4～9月 後期：10月～3月 前期・後期：前期から後期にかけて講義がある場合 </div> この学習がなぜ必要か、それらがどのように利用されるかを記述している		
授業の概要	授業の全体を把握できるよう、授業の概要を記載している	<u>本校のディプロマ・ポリシー</u> 1. 生命の尊厳と人格を尊重する態度を基盤とし、感性豊かな人間性を有している 2. 科学的根拠に基づき安全で安楽な看護を実践する能力を身につけている 3. 倫理に基づいた看護を実践する能力を身につけている 4. 多職種と連携・協働し、地域医療に貢献できる基礎的能力を身につけている 5. 専門職業人としての自覚を持ち、自己研鑽し続ける基本能力を身につけている	
授業計画(回・内容・授業形態)	①回および授業内容、授業形態(講義、演習、実習の別) *予習や復習の参考になるよう、授業の進度に即した各回の具体的な学習内容を記載している ②授業時間外に必要な学習(予習・復習)の内容を示している *各回の授業内容・授業形態のところに示すか、まとめて示している ※授業時間外の学習時間を含めた学習に対して単位が授与される		
使用テキスト	授業に使用するテキストを示している		
参考図書	参考文献として紹介する図書がある場合示している		
評価方法	①評価方法(小テスト、課題、筆記テスト、レポート等) ②複数の評価方法を使用する場合は配分割合を示している		
履修上の注意	受講生に臨むことや履修上の注意点を示している		